

会 議 録

会議の名称	第9回小金井市立学校部活動の地域連携に関する検討委員会
事務局	生涯学習部生涯学習課
開催日時	令和8年3月17日（火）18時30分から20時00分まで
開催場所	前原暫定集会施設 1階A会議室
出席者	委員長 金子 嘉宏 委員 副会長 塩原 真一 委員 委員 天本 晋平 委員 大林 基 委員 倉脇 雪夜 委員 板垣 智徳 委員 金城 由樹 委員 梶野 政志 委員 川原 美紀 委員 鈴木 和司 委員 鈴木 哲也 委員 瀬沼 将己 委員 砂子 啓子 委員 武田 修宜 委員 中村 彰宏 委員 依田 隆夫 委員
欠席者	-
事務局	生涯学習部長 平野 純也 生涯学習課長 濱松 俊彦 スポーツ振興係長 越 元宏 スポーツ振興係主任 津田 理恵 指導室長 平田 勇治 指導室統括指導主事 田村 忍 学校教育部長 大澤 秀典
受託者	リーフラス株式会社 戸所 徳益 富永 寧々
傍聴の可否	☒ 可 ☐ 一部不可 ☐ 不可
傍聴者数	2
傍聴不可等の理由等	-
会議次第	1 前回会議録の確認 2 小金井市における学校部活動の地域連携について 3 その他
発言内容・発言者名	別紙審議結果のとおり
提出資料	別紙のとおり

金子委員長 定刻となりましたので、第9回小金井市立学校部活動の地域連携に関する検討委員会を開会いたします。

本日は、ご連絡はありませんが、鈴木(哲)委員が遅れて参加されると思いますので、定足数については、小金井市立学校部活動の地域連携に関する検討委員会設置条例第6条第2項に半数をもって成立することになっており、現在16名中15名のご出席をいただいておりますので、本会議は成立していることをご報告いたします。

続きまして、会議に先立ちまして、配布資料の確認を事務局からお願いいたします。

(配布資料の確認)

金子委員長 ありがとうございました。では議題1「前回会議録の確認」です。前回分第8回の会議録について、事務局から説明をお願いいたします。

津田主任 本日、机上に会議録をお配りいたしました。本日、皆様にご承認いただけましたら、これを確定版とし、今後、市役所の情報公開コーナーやホームページに公開します。

金子委員長 事前にメールでの確認もされていると思いますが、本日机上に配布されたものをもって確定とさせていただいてもよろしいでしょうか。これで確定させていただきます。

続きまして、議題2「小金井市における学校部活動の地域連携について」です。これまでの審議を通じて皆様からご意見をいただき、答申をまとめ上げたものになり、「案」が外れて正式な形となっております。これをご覧いただきたいと思います。まず、事務局からご説明をお願いいたします。

津田主任 資料1と資料2を合わせてご説明いたします。資料1は、前回1月の委員会でお示した答申について、委員の皆様からいただきましたご意見を反映したものです。

資料2は、変更した内容を表にまとめたものです。資料2の表に沿って上から順番にご説明いたします。

1番上の「学校への問い合わせ等対応」という項目で、試行に対

する説明の場を設定することや、苦情対応への懸念についてご意見をいただいていた。表の１番右側に、このご意見を踏まえ、追加した記載を示しています。具体的な記述ですが、資料１の方にお戻りいただき、２０ページの下から１２行目あたり、「（ア）施策案」のすぐ上の２行、「実施に当たっては、市民、保護者、生徒への説明を尽くすことを求める」という記載を追加しました。

続いて表の２つ目、「平日活動の短縮と安全管理」という項目です。活動時間を短縮した結果、準備等を含めると実質の練習時間が減ってしまうのではといったご意見への対応です。具体的な記述では、資料１の先ほどの場所の５行下、「（イ）平日の部活動については」ではじまる文章です。「学校教員の過度な負担が生じないように、活動時間を短縮して実施する」という記述でしたが、その前に「学校教員以外の安全管理及び事故等に関する責任を負える指導員を配置できない場合は」という条件を追加しました。この追加により、指導員を配置できる場合には活動時間の短縮が必ずしも必要ではない、という意味合いが含まれる形になりました。

表の上から３つ目、「活動内容・主体性」に移ります。専門性のみに特化せず、自由に出入りできる枠についてご意見をいただきました。これに対し、資料１では２１ページ、真ん中より少し下あたり、「（ウ）活動頻度」の「b」に「複数の活動を並行して行ってもよい。」を追加しました。

続いて表の４つ目、「安全な移動」についてです。移動手段の確保に安全についての視点を追加してほしいというご意見をいただきました。資料１では最後のページ、２３ページの上から３行目に「安全な移動手段の確保」がありますが、ご意見を踏まえ「安全な」を追加しました。

続いて表の５つ目、「人材バンク・登録制度」の箇所ですが、教育ボランティア人材バンクのような情報共有の仕方を書いた方がよいというご意見を踏まえ、資料１の最終ページ、下から４行目に「既存の地域のリソース等の活用」を加えました。

ご意見を踏まえ変更した箇所は以上です。なお、ただいま説明した内容の他、項番の付け方など体裁の調整や軽微な文言修正についても併せて実施しました。また、答申には委員会の実施報告としてこれまでの委員会の内容を記載しておりますが、本日の会議の後に内容を追加予定です。説明は以上です。

金子委員長

ありがとうございました。今ご説明いただきました件に関して、前回ご意見をいただいた内容を修正していただいたものになるかと思いますが、ご質問等がありましたらご発言をお願いいたします。

私の方で修正に関わっていたので大変申し訳ないのですが、実は一瞬だけ思ったものがあって、1番最初の修正事項で「実施に当たっては、市民、保護者、生徒への説明を尽くす」ということを私が書いたのですが、よく考えてみると先生への説明はいらないのだろうかと一瞬思ってしまったしまして。教員への説明は尽くさなくてもいいのかというのが、少しだけ気になってしまいました。学校へのクレームがないようにということで入れたのですが、教員への説明は当然のこととして書いていないというところもあるかと思うのですが、教員への説明もあった方が良かったなと。自分で書いておきながら申し訳ないですが、皆様からのご意見をいただけたらと思います。完全に忘れていましたが、「教員」という言葉を入れていなかったですね。教員とするか、教職員とするか。

前回からの修正点は、今ご説明いただいたところになるかと思います。では、ご了解いただいたということで、この形で今の修正のところだけご相談させていただいた上で、答申として教育長にお渡しするという方向で進めさせていただければと思います。今の修正も含めて、今後のことに関しては、私と事務局の方にご一任いただくという形で進めさせていただければと思います。皆様ありがとうございました。ではその方向で進めさせていただきます。

続きまして、議題3に入らせていただきます。本日、鈴木(和)委員から南中学校のガイドラインをお持ちいただいておりますので、そちらのご説明を一度していただいて、皆様からのご質問をお受けしたいと思います。よろしくお願いいたします。

鈴木(和)委員

南中学校の鈴木(和)です。よろしくお願いいたします。

今年度からこの検討委員会に入らせていただきまして、色々な話をする中で、最新の状況や小金井市の動きも含めて、本校の方で生活指導主任という立場でもありますので、学校の方で問題提起をさせていただいて、来年度に向けて部活動のガイドラインを南中学校独自で作ろうという話になりました。

教員だけでなく、保護者の方、学校運営協議会の方にも意見を聞

いて、最終的な形ということで、来年度はこの形で進めていこうと思っております。

大幅に改定したところで言いますと、たくさん議論はあったのですが、まず1点目は、基本方針のところに「働き方改革」という言葉を実際に入れました。これはなかなか保護者の方には伝わらない部分もあったのですが、きちんと地域の方、保護者の方にも教員の負担軽減というのでも謳っていかなければいけないのかなということで、基本方針の中に入っております。

あとは、「部活動の運営は年度当初の職員会議等で決定する。教員の異動等で顧問がつかない場合、廃部となることもある」という言葉を入れさせていただきました。学校運営協議会の方では「これはどうなのですか」という話が実際にあり、「子どもが実際にいるのに教員がつけないのはいかがなものか」という話もあったのですが、実際には異動で入ってくる先生によっては部活ができないということもあるので、本当に運営ができないということもあるとご説明させていただきました。ただ「こう書いてあるものの、やはり子どもがいる場合はなるべく活動ができるように」というところは教員の方で話し合っていきたいと思います。ただ、文言としてはやむを得ない場合もあるので載せさせていただきましたという形で作りました。年間スケジュールはこのようになっておりますということで、部活はこういう形で動いていますと皆様に知っていただきたいなということです。

3番の活動のガイドラインの決まりということで、こちらはかなり意見がありましたが、大きく変わりました。文部科学省の部活動のガイドラインのところで、「部活動を行う場合は勤務時間内に限る」というのが令和7年度の12月のガイドラインで出ました。ただそれを完全に遂行するのはなかなか難しいということで、今年度も最終下校時刻を18時30分から18時にしましたが、それももう少し短くしようということで17時45分にしました。微妙に45分というのは何故かという、16時45分が教員の仕事の終わる時間です。プラス1時間くらいなら先生たちも頑張れるよねというスタンスで17時45分です。別の視点からの話になりますが、来年度から小金井市は電話の留守番機能がつくようになります。なので、そのことも加味して17時45分に最終設定で、子どもたちはこの時間に校門を出る。そうすると大体18時から18時15分

の間には家に着くだろうという算段をしています。保護者の方たちに聞くと、18時30分から塾というのは意外と多いようで、それくらいに着いて塾に行くというのもありなのかなというところで作っております。

あとは、休養日というのを平日にも1日設けました。水曜日は一律部活動禁止ということで、なぜ水曜日なのかというと、水曜日は基本5時間授業で、その後に教員の研修であったり、市の教育協議会が入っていたりして、結局潰れることが多いです。そのため、もうそこは一律部活動なしにしましょうというところです。朝練については、やはり教員の負担がかなり大きいという意見が先生たちからありましたので、朝練もなしということで、活動時間内はなるべく学校生活の中に収めていこうという話になりました。

5番の設立のところで、文部科学省及び東京都教育委員会、小金井市教育委員会の部活動の地域連携・地域移行というのが施策として出ているので、今後新規の部活動は新設しないという形にしました。どうしてもこういう部活をやりたいという先生もいらっしゃるのですが、新設はもうしないで、今の既存のもので形を作っていこうということにしています。

あとは次のページの7番ですね、生徒の心得というところで、本校は今年度まで部活動の入部届を出すのは「3年間継続」となっていました。ただ状況的にどうなるかも分からないですし、3年間継続となると、結構退部することも多くて、その負担というか、友達関係に原因があったり、いじめがあったりとか色々な問題もあって、辞めるとなった時のハードルが少し高いので、1年間継続で毎年確認をしていこうという形になりました。あとは大きくは変わっておりません。

もう1部、紙が出ているものは、保護者の方にコメントをいただきました。表面は全然関係なくて、生活指導部から生活の決まりについてということです。裏面です、部活動の地域移行についてということで、保護者の方にも自由記述で打ち込んでいただきました。カテゴリー分けをしてもらって、こういう声が多く挙がっていますよというのを整理してもらいました。

教育的価値というところでは、報道もあるのか先生たちの負担軽減もという話もありましたが、ただ子どもたちの成長に繋がっているという意見もあり、人間関係などを学べる場として重視してほしい

いという声もありました。

あと一定の質を保ってほしいというところは次に繋がるのですが、やはり外部指導者の指導の方法とか言動がなかなか子どもに合わず、そこでトラブルが起きるということが年間でありました。勝利至上主義に向かってとか、規律の方が強い指導者もいて、そこでの保護者とのトラブルだったり、子どもとのトラブルであったりというところがありました。あとは指導が厳しすぎる、配慮に欠けるという指摘や、外部指導者であっても学校としてのチェックや連携をしっかりしてほしいという声は結構ありました。

他にも3番のところで、活動運営と情報提供についてということで、やはり小金井市はデジタルのところがなかなか進んでいないこともあるので、デジタルでお知らせをする若い先生がいたり、配布物を紙で渡す先生がいたりということで、学校として統一をしてほしいというご意見がありました。兄弟がいると、上の子は紙をもらってきて下の子はデジタルだというような話もあって、親としては分かりづらいという話もありましたので、その辺の統一もしていかなければいけないのかなと。これが地域に移行したとなると、デジタルのものが増えてくるのかなと思うのですが、その環境の整備というところもしていかなければいけないのかなと思いました。

部活の地域移行に対する受け止めということで、思っていたより賛同する声が多かったです。8割9割はできるだけ地域に移行してほしいという声の方が多くて、ちょっとやった側としてはびっくりです。学校の部活をとにかく進めて継続してほしいという声の方が多いだろうなと思っていたのですが、意外とそうではなくて、先生たちの負担軽減の理解も結構ありました。あとは専門的な指導を受けたいという保護者が結構多かったです。我々はなかなか自分のやってきた競技を顧問として持てるという状況ではないので、そういうところでは保護者は専門的な指導をしてほしいなという声もありました。保護者の意見を聞いてみてすごく良かったなと思っています。

先ほど言った時間のところも、意外と先生たちの方が保守的というか、18時30分とか18時とか言っていたのですが、保護者の方の意見を聞くと、やはり塾の時間があるのもっと早く帰してくださいという声が多くて、意外とこちらが思っているよりそ

うなのかというところがあったので、すごく勉強になったなと思いました。以上です。

金子委員長 ありがとうございます。皆様からご質問等ありましたら、お名前を言ってからお願いできますでしょうか。

ちなみにこのガイドラインはまだ子どもは見ていないですか。

鈴木(和)委員 まだ見ていないです。

砂子委員 砂子です。ご説明ありがとうございます。ガイドラインの1ページの1番下から3行目にある「土日大会などで休日出勤した場合は、振替休養日を設ける」というのは、生徒たちが月曜日お休みにしますよとか、先生の出勤のことですか。それとも子どもたちが月曜日もしくはその週のどこかで休みを入れて調整するということですか。

鈴木(和)委員 子どもたちが、ですね。

砂子委員 わかりました。ありがとうございます。

金子委員長 よろしいですか。色々と具体的に進めていただいているので、来年度以降、具体的に詰めていく中で多分先行してこういう課題が出てきたとか、子どもたちから総反発を食らったみたいなのがあるかもしれないので、そういう話が出てきたらまた教えていただきたいなと思います。ありがとうございます。もし何かありましたら終わった後でも是非ご質問いただければと思います。

では、今回、本日でこの委員会は最終回になります。最後に2年間、皆様本当に力をいただきましたので、是非委員の皆様から一言ずつ、感想やご意見をいただければと思います。この審議を通じて感じられたことや今後に向けてのお言葉などをいただければと思います。では、副委員長から順番にお願いしてよろしいでしょうか。

塩原副委員 緑中校長の塩原と申します。ありがとうございます。働き方改革もそうなのですが、自分は6年間で異動というのは自分の教員時代では経験しておらず、長ければ10年または8年という中で、おそ

らく10ぐらいの部活動を担当しました。自分の専門が野球ですけれども、なかなか持つことが難しい中で、今南中の例にある通り、働き方改革なども当然だと思います。

一方、小金井市の中でも地域での意識の差や違いというものもあるのかなと。質問はしませんでしたけれども、このパブリックコメントの77件というのは保護者の方の何パーセントのご意見なのかなと。本校で言えば来年630人を超えるかもしれない中で、600近い世帯があって、やはり多種多様なご意見が出てくるだろうと思う中で、どのように地域移行するか。1番早いのは、部活動指導員や外部指導者が数限りなく来てくれれば非常にやりやすいのですけれども、現実問題としてそういうわけにはいかないという中で、この南中にあったように保護者のお考えや、やはり子どもの声を聞くというのは大事なことだと思います。

おそらく南中と緑中の子どもの意識も違います。だから何でも無くせばいいというものでもないし、今のままではできないしという中で、行政とのせめぎ合いもあるのですけれども、どのように指導員を確保するのか。ご意見の中にもありましたが、自分は野球なので、地域の指導者の指導の仕方というのは、いわゆる教員の世界での常識ではないです。やはり少年野球からしても、とてもありがたい面と、今時ではないだろうという面もあって、こういう外部指導者の方とか部活動指導員の方への、失礼な言い方ですけど指導とか研修とか、こういったものは各学校でもやるべきですけれども、賄いきれないところがあるのが現実かなと。これはやはり行政ともタイアップして、部活動指導員や外部指導者のレベルアップというか、今後の教育活動としての部活動のあり方に賛同していただけるようなところも必要かなと考えております。以上です。

武田委員

緑小学校校長武田です。ありがとうございました。私は、今年異動してきて、前任校の市町村ではちょうど部活動改革の狭間の時で、小学校6年生の保護者にその市の部活動は、こうですよというビデオを見せるということがありました。

ただやはり実際は、子どもたちがここにはこの部活がないということで別の中学校に通っており、小学校は70校ぐらいあったため中学校も多いので、そういったところでどうなっていくのかなと思って見ていると、やはり色々な問題が出ているのが実状でした。

今回この小金井市の方でこういう風に考えていくということで、地域と今後一緒に考えるということがいいなと、子どもたちを中心に据えて、これから進めて先生たちのことも考えてということで、そこも前向きに行けばいいかなと思いました。ありがとうございました。

依田委員

依田です。私は専門の野球ばかりをやってきましたので、学童の野球を12年、それから中学の野球を20年、合わせて32年、指導を今も続けております。先生からもお話ありましたように、明らかに時代の流れが変わってきていて、自分が最初やってきた頃の背景と今の背景はもうまるで違う時代になってしまったということを感じていて、なかなか難しい時代になってしまったなと思っています。

今回、この会に参加させていただいたのも、公募の委員として論文を書いた時には、学童それから中学の軟式野球ですけども、それを長くやってきて、特に中学の場合はクラブチームということでボランティアの団体が集まって、35年も設立してやっている中で、そういった色々なノウハウがある中でかなり協力ができたり、それを今回の何かに生かしてもらえればいいなというつもりで来ました。

そうは言っても、これだけ大きな数のクラブがあったりしますので、それがどのように当たるかなとは思っていましたが、今回の答申については、今の時代に多く配慮して、そういったものができたのかなと思っています。

前回、この委員会の時も余分なそれた話をしまして皆様には大変ご迷惑をおかけしてしまったという反省はしております。今回の答申に基づいて良い方向に行き、私も小金井市に住んでいることが非常に長いので、前向きになればいいのかなと思っています。以上でございます。ありがとうございました。

砂子委員

公募委員の砂子です。今回市の会に参加させていただくのは初めての経験だったのですが、各学校の先生方と一緒に交えて、このような話を長い期間をかけてできたのはすごく貴重な経験でした。この2年、この人数だけでも色々な意見があつて大変な中、今後、テレビでもやはり地域のことがどんどん出てきていて、色々な

意見が出てくるのだろうなと思っていますけれども、今回目線合わせとしては本当にその安全で楽しい場所とか、生徒たちが優先でというところが目線合わせできているのかなと思っていますので、何か、この後自分は一市民としてなんですけれども、そういう目線で伝えられるところがあればしっかりできたらなという気持ちでおります。また引き続きどこかでお会いできると思いますので、今後もよろしくお願いいたします。ありがとうございました

瀬沼委員

緑中学校の瀬沼です。2年間、この部活動の地域移行の検討委員に関わらせていただき、リーフラス富永様をはじめ、緑中学校ではかなり実証実験などもやらせていただき、だいぶ教員の考え方を変えていかなければいけないのだなと学んだところです。短い時間でどれだけ熱量を持って接することができるかとか、ただただその長さに囚われるのではなく、私たちの指導の仕方や工夫ということを考えていかなければいけないなと実感しました。

なので、多分これで終わりではないと思いますし、学校の方でもまたこれから色々お手伝いをしなければいけないこととか、実験等でご協力する部分も出てくるとと思いますので、私たち教員の考え方を少しリセットして、いかに子どもたちに充実した生活を与えられるかというところを、教員たちに発信できるように頑張っていきたいと思います。

中村委員

体育協会の中村でございます。長期に渡り、各委員の皆様のそれぞれの専門的な知見から熱い思いをお聞きすることができました。非常に勉強になりました。ありがとうございます。この場を借りて御礼申し上げます。

今回の答申についてはあくまでも、今後の部活動の地域連携が具体化されるにあたっての指針を示したものだと思います。今後やはり具体化にあたって色々困難なケースに直面するかと思いますが、少しでも具体化するにあたって我々の答申が実際に具体化して実行されるよう切に希望いたします。2年間ありがとうございました。

鈴木(和)委員

小金井市南中学校の鈴木(和)です。今年度、この検討委員会に異動してきたので入らせていただきまして、色々な提案や、現場の立場というところでお話をさせていただきました。

肌感覚というか感じたところで言いますと、多分本気度ってどれくらいあるのかなとすごく感じております。行政、議会、管理職含めてですけれども、やはり本気で動く気があるのかなというところは、今後1個の課題になってくるのかなと思います。ただ色々な立場の方とコミュニケーションをとらせていただいてこの1年間、色々な問題があり、あとは金銭的なところ、いわゆる予算的なところはやはり大きいのかとすごく思います。他の地域とか周りの地域なんか見てみると、やはりパッと動いているところは行政が持っている予算が大きい地域なのだなとすごく感じております。

なので、そういった難しい面もあると思うので、一概には言えないのですが、ただその本気度というところはもう少し感じていきたいなと思っております。

今日、うちの管理職とも少し話をさせていただいて、今ちょうど異動の先生方との面談の時期で、やはり管理職の先生たちはすごく苦勞するのは、部活動どうするという話になっていて、うちの校長先生の話で今日聞いたところ、やはり肌感覚としては結構大変だよと。こういう部活があるけどお願いしますと言われた時に、できません、と言われることも増えてきていると。あるいは家庭の状況でやりたくてもできません、という方も増えてきているというところで、でも運営しなければいけないとなると、なかなか難しい面もあるなというところは、立場によってすごくあるとすごく感じました。

なので、体制がしっかり整えられるといいのかなと思いますので、この今後の動きはすごく期待していきたいなと思っております。以上です。ありがとうございました。

大林委員

公募委員の大林です。まずは2年間お付き合いさせていただきまして、皆様のご意見を色々子どもたちのためにということで議論をさせていただいて、本当にありがとうございました。

答申に関しては、大きく2つ、現状に関して、教員の皆様の負担軽減ということで、本当に切実な思いが伝わっていました。頭では分かっているつもりだったところが、やはりそのリアルな声を聞いて、答申の中でかなり踏み込んだところまで記載されていて、それは非常に今後の教員の皆様の負担軽減に繋がればいいかなと思っていきます。一方で、その大きなビジョンですね、まだ当然ながら大き

なビジョンを示す段階だという状況だと理解しています。これを具体化するためにはもう相当なハードルと、それから知恵と、あとやはり教育委員会の覚悟というところで、政策を打ったというのは知っていただかなければいけないし、我々ができること、広報活動なのか、一人一人ができることをやはりやっていかないと、なんとなく雲の上で誰かがやっているという感覚で市民が見ていると、出来上がった時に不満を持つ市民になってはいけないなと思って、私も一市民としてこれからも見ていきたいなと思います。ありがとうございました。

川原委員

P T A 連合会の方から参りました川原です。2年間お世話になりました。私も色々な市の運営委員会とかやってきたのですが、やはり先生たちも交えてこれだけ多く的人数で会を重ねていくというのは初めてでしたので、とても勉強になることが多かったです。

子どもが2人とも運動部ですが、金子先生の色々なプレゼンのお話とかを見ていて、やはり子どもたちが自分でやりたい文化活動とか、そういったところも本来地域が何かお手伝いしてその子のやりたいことを実現していくというのができるといいのかなと思うのですが、やはり予算がないというところに落ちてしまうことがどの会議に出ているも多いので、小金井市は市民が元気だったり、市民がすごく活発だったりする地域だと思うので、また地域コーディネーターの会議とかも出たのですが、やはりやってくださる方が高齢化していたり、子ども会も町会もすべてが高齢者の方がすごく頑張ってくださっているのですが、そこも世代交代をしていき、働いているお母さん方もとても増えている昨今なので、どれだけ地域がこれから担うことができるかというのは課題かなと思います。すごい勉強になりました。ありがとうございました。

金城委員

東中学校の金城です。今年1年間ありがとうございました。小金井市に2年前に異動してきて、2年間過ごしている中での肌感ですが、部活に対して生徒が一生懸命もちろんやっているのですが、勉強とか学習との両立を頑張りたいという意識が、他の多摩地域に比べると多いかなという印象があります。そして、部活を2年間や

っている中で、こちらの声かけ、問いかけとか指導の仕方の方の方法によって、学習よりも部活の方が楽しいというように心が変わっていく生徒も出たりとかするので、教育としての、私は部活をやりたくて教員になった人間なので、そういう立場からすると、問いかけとかやり方によっては、生徒が生き生きと過ごせる場であるかなと思いました。

検討委員会の話を通して、我々大人側がどうしていくかという議論ももちろん大事だと思うのですが、生徒の声をぜひ聞いていただきたいなというのがあります。南中の先ほどの保護者の意見のところもあったと思うのですが、保護者はそう思っていることが、子どももそうかというところも、南中だけじゃないのだけれども、その辺りは、子どもが主役でどうやっていくのかということを考えるのが第一に大切なかなと思いました。とても素直な生徒たち、子どもたちなので、より良く活動できる場をなくさないように、それも踏まえて考えていけたらなと思います。ありがとうございました。

天本委員

小金井第一中学校の天本です。立ち上げから関わらせていただきありがとうございました。私自身は部活動、前の学校までは結構バリバリやっていましたが、家庭の状況が変わって、子どもが生まれたりとか、祖父母の介護があったりとかです、なかなか関われない状況が続いている中で、正直、例えば自分の名前は顧問として入っていて、部の顧問でありながら、自分のクラスにその部の子がいても、部活動の顧問としての顔はなかなか立たないとかですね。その関係で保護者との関係も難しくなり、単純に部活動だけ切り取るのではなくて、結構複合的に部活動との付き合い方にすごく苦労した側面が私個人としてはすごくありました。すこし苦しくて地域移行とか進めるといいなと自分はそういう立場だったのですが、職員室でその話をすると逆に、自分ももう部活がないなら教員なんてやってられないっていう先生も、今でもいらっしゃいます。やりたいけどできない私のような人間もいます。基本的にはやりたくないと言う人もいます。では、子どもたちはどうかというと、例えば運動部であれば、絶対に勝ちにこだわって頑張りたい子もいれば、いわゆるエンジョイ勢の子どもたちもいますけれども、とりあえずその場があって楽しく友達とできればいいという子もいます。

実際、保護者もどうかというと、先ほど先生方のお話もありましたが、やはり学習という基本の柱がありながら両立して欲しいという家庭がすごく多かったり、一方で、勝利にもこだわって欲しいという保護者もいたり、とにかく色々な意見があります。色々な立場から意見があるというのが難しいところで、最適解は何かというのを考えなければいけないというところでした。

今回まとめた答申のところが、これがベストかどうかは、これから先分からないですし、例えば今のベストであったとしても、5年後10年後また変わっているだろうし、だからこそ考え続けなければいけないところだし、変わり続けなければいけないことなのだろうなどはすごく思いました。なので、最終的に落ち着くことはないのだろうとは思いますが、これからも教員としてできることはやっていけたらなとは思っています。

鈴木(哲)委員 南中保護者の鈴木(哲)です。まずは2年間お疲れ様でした。私は南中の保護者として、子どもたち2人、運動部で部活動に参加させてきたのですが、今、このガイドラインを拝見させていただいて、そうだなと思うところもあれば、どうだろうと思うところも正直あります。実際は、卒業生なので、今後は新しい考え方で南中が部活動をやっていくところを拝見しました。いずれにしても、まずはやってみるということだと思います。そして、悪いところがあれば、それを修正していくようなことになっていくと思っています。

前回の会議でも申し上げたのですが、今、先生たちの意見の中やお言葉の中で、肌感覚という言葉が出てきたので、僕も肌感覚で感じているところを言うと、技術や結果とかを望む保護者や生徒はもうすでにクラブチームに行っているのではないかなと。そして、もうちょっとその違う技術的な、専門的な指導を受けているかなと思います。前回の会議でも申し上げましたが、学校部活動で1番優先されるのは何よりも安心・安全であるということと、それから子どもたちがどう思っているかということだと思います。部活動の主役は誰か考えていった時に、やはり子どもなのだろうと。今回の会議で、もう少し子どもたちがどう考えているかを、議題にあげるとか、情報としてあげていただけたら良かったかなと思う点が1つあります。今後も子どもたちの意見を聞くということがとても大事だと思います。くどいようですが、本当に部活動の主役は子どもたち

だと思います。

そして、安全ということで、もう1つ、肌感覚で申し上げると、時間が短くなるのは、もう先生たちの働き方改革は不可避なので、どうしてもマストでやらなければならないということだと思います。ただ、うちの例でいくと、極端に部活動の内容ですとか、時間が短くなったりすると、自主練に行くということが本当に頻繁にありました。夏の暑い中、本当に子どもたちはこの地域から出たことがないので、どのくらいそこまでの距離があるかということが分からず、練習の体育館の施設も、学校の体育館もいっぱい使えないので、府中に行くことがあったのですが、武蔵小金井から飛田給の駅までのところを15分で移動できているようなこともありました。現実的には自転車で行くので無理ですけど。その時に、やはり親としては、熱中症にならないかとか、無理な移動で交通事故に遭わないかとか、そういったことが心配でした。保険も効かず、指導者もいない点というのは、本当にずっと心配していたところでした。これがどのように解決されていくかとか、こういった点にも視点がきちんと置かれると良いなと思います。

今回は指針ですけど、大林委員がおっしゃっていたように、本当に地域には色々な事情があると思います。来年度以降、これは具体化していくという話になっていくのだと思うのですが、あまり夢のようなことを言わずに、本当に個々の対応にあった1番いい形というのを考えていくことが大事で、これを考えていくのは、大人だけで考えてこの形というのではなくて、もっと子どもたちがどう考えるか、何を思っているのかっていうことを聞いて、具体化できればいいかなと思います。以上です。2年間ありがとうございました。

梶野委員

梶野でございます。私は1番年長だと思いますし、私の感覚でいくと当初は、部活動というのは、先生がやるのも当たり前という時代です。もう先生が当然朝から晩まで見てもらうのが中学校の部活動だったので、見ない先生は逆に子どもたちから言うと、なんで部活見ないのだという感覚でしかなかったです。

ただ、それは時代とともに先生の働き方改革もあるので、時代だなという思いをしています。その中でやはり、これから今後地域に移行、つまり移行というよりもむしろ連携の方がいいかなと思って

いるところは、外部指導者でも、学校の中はわからない、生活するのかわからない、教員じゃなきゃわからないところがあるので、それについての連携がうまくできれば大いに有意義かなと思っています。外部指導者に対してその技術指導とかそっちが優先されると思うのです。そうするとやっぱりそこと伴う元々子どもたちのその日中の生活がなかなか分からないという、子どもの様子となるとやはり学校での連携というのが必要かなと思っています。

特に、小学校の子どもとやったことがあったのですが、中学校もありますけど、小学校の時は、土日だけ先生来ないので土日だけは私が見ていたのだけど、その間も子どもたちがどういう生活をしてたか聞きながら指導をしていました。中学校の場合は、先生がなかなか引率とかして行けない、例えばサッカーの試合を見に行くのに、来られないことがあり、私が連れて行ったこともあります。それはまずいことしたなと思いましたけども、子どもたちをみんな連れて行って、一緒に電車に乗って見に行ったりしたこともありました。そういう延長で行くので、最近は保険とか安全とかそういうのはどうしても考えなきゃいけない状況なので、だいぶ時代は変わったなと思っていますが、それにあった新しい部活動のあり方というのは、やはり考えていただいたのかなと思っています。ありがとうございました。

板垣委員

第二中学校の板垣です。立ち上げから関わらせていただきまして、色々な方のご意見をお伺いして、そのお話をしている中で、当初おっしゃられたことと最終的なところでおっしゃられていることが変わっている委員の方もいらっしゃいましたし、やはり学校の中のことは、こんなにも外の方には分からないのかとすごく感じたところでもあります。

なので、今回の答申はかなり踏み込んでいて、令和8年度中に具体的に検討して令和9年度の実施を目指すということを求めると言うように掲載されていますので、実際にそれを求めたことを実施して頂けるのかどうなのか、そこに関しては小金井市教育委員会の覚悟だったり、予算的な部分だったりと言うところもあるかと思いますが、地域連携委員として関わる事はできませんけれども、その動向はやはり、ここにいる方を初め色々な方で見守っていくことが必要だろうなと思いました。

先日ですね、小金井市教育に関わるパブリックコメントが12月にあり、その返答数が33件しかないですね。小金井市民が大勢いて。では、それを見た上でそれで良いと思って返答してなかったのか、そこに思いを馳せた人が33名しかいなかったのか。パブリックコメントの内容を見てもほぼ教員が書いているような内容だから、実際に保護者の人だったり市民の人だったりと言うのがどこまで教育に関心を持ち関心を持たないと予算も配当されないと思いますし、そういう意味では、この検討委員会がありました、その上でガイドラインがちゃんと周知できる機会、例えば学校だよりに掲載したり、メールで配信だけだと弱いのだろうなど。

今回のパブリックコメントも学校だより、学校によってはURLが紙ベースで配られているものがあるだけで、QRコードも何もなく、その読み取れないでしょうというものがあり、その周知方法、一応メールは投げました、きっと「周知を行っているはずで。」で終わっていて、実際にそこを見るところまで行っていないと言うのも現状としてあると思いますし、やはりその関心が薄れてしまうと、良くはならないだろうなっていうのをすごい肌感覚として感じました。

全然関係ないですけど、先日うちの学校で、環境に関する講演をしてくださった方が、無関心だけで無関係ではいけないというお話をされて、その無関心をまず関心向けさせるというのが我々教員にもここにいる方にも、教育委員会の方にもしていただいて、より良いみんなにとっての最適解をどんどん見つけていって欲しいなとは思っています。2年間どうもありがとうございました。

倉脇委員

小金井市文化協会から参りました倉脇です。2年間ありがとうございました。

文化協会も、高齢の方が多いので私が1番関係に近いだろうと言うことで送り込まれたわけですが、まだ子どもが小学生なので直接の関係はまだないのですが、自分がどうだったかなと振り返ってみました。

中学は文化部で高校になって運動部に入ったのですが、やはり結局はサークル特化の活動よりも汗と涙を流した部活の方が未だに人間関係の付き合いがあったりして、他校との試合だったりとか、外部指導者だったりとかの人達との思い出とか、部活が楽しく

て学校行っていたみたいなの状態だったなと、今思い返せばすごく思っているの、子ども達もそういう部活が楽しくて学校に行っているみたいなのは結構多いのかなと思っています。

とは言え、このエリアは、ファミリー層や子どもが多いと自負していると思っていますが、なかなか地域連携も予算とか責任とか安全とかと言うところでハードルは高いと思いますが、地域の方が見守っているじゃないけど、色々な学校が連携することで、どこの誰々とかどこエリアの誰々みたいな感じで、お隣近所が分からないようなこの昨今、そんなような中でそういうエリアのなんかこうおせっかいおばちゃんおじちゃんが見てくれるような、昔のそういう地域連携みたいなのところをかつつけて戻るといいなと、希望的観測を持っています。2年間ありがとうございました。

金子委員長

では、最後に私の方から一言、お話をさせて頂ければと思います。

皆様、本当に2年間ありがとうございました。補充の方も、ありがとうございました。最初、僕がここに座って1番びっくりしたのは、こっち側が学校の人、こっち側が地域の人という会議だったことです。最初は、敵かと。これはやめてくださいと事務局の方に言わせていただきました。そもそも学校と地域は敵同士ではないはずなので、向かい合う必要はないのではないかなと。そして、今回もう混ざっていただいていますし、途中からワークをするということも含めて、いくつかの島を作ってやるみたいなのをさせて頂きました。学校の先生がたくさん出ていただいているし、私自身も学校の先生のお話を何度か聞いていましたけれども、途中から、かなり本音を言ってくれたのかなと思いますので、すごく良い学びになったなと思います。部活動のことはすごく難しいところがあるのですが、僕は学校の問題だとは思ってなくて、むしろ地域の問題ではないかと思っています。

地域教育と家庭教育というものが弱体化していつてしまっていて、全てが学校に押しつけられているというような状況が現実にはあるだろうなというように思います。

なので、部活動のことは、学校ではなくて、地域教育としてどうやって子どもたちの、学校が終わった後の時間を地域が教育して行けるかというのが主眼になってくるのではないかと思います。

学校教育というのは、実は法律で決まっていますし、予算化も定額で一定程度されるというようなところが確実にあるのですが、実は地域教育とか家庭教育というのは、定めている法律というものはほとんどないため、予算化もされにくいという分野になっています。

しかし、逆に言うと、それだからこそ自由度があって、先ほどの多様性みたいなものが生み出されるのは、法律で縛られていないからというところもあるかと思います。なので、僕は地域教育から見ると、予算化のチャンスではないかなと思います。ここにはお金を注ぎ込まないといけないということが、部活動も含めて、地域教育の方に一定程度の予算が措置されるというようなことの可能性は部活動の地域移行ということは含んでいるだろうなと思います。

もちろん、家庭教育のことも含めて、それをどのように全体で支援していけるか、組み立てていけるのかということになってくるかなと思います。

もう1つは、法律に定められていないということは、小金井市には小金井市の地域教育のあり方が作れるということだと思いますので、引き続き議論も続けていただければなと思います。

合わせて、子どもの視点から見ると、学校に教育を全て押し付けるということは、子どもが学校にいる時間が長くなっていくということになります。子どもが学校の管理下にある時間が長くなっていくということですね。

これはもう中学校の場合はだいぶ違いますけど、小学校の場合は特に、学校において、子どもたちは自己決定というものをほとんどしていません。朝から晩まで、食事をする時間も決まっている。休み時間はよくわからないけど、休み時間なのに外に行って遊べと言われるわけですよ。自分で決められずに。本当に恐ろしいほど子どもたちは自己決定というのをしていません。なので、先ほど法律に定められてないということもありましたけれども、放課後こそ子どもたちが自己決定のできるということがすごく重要になってくると思います。

ただ子どもなので、先ほど安全なお話もありましたが、無秩序に自己決定をしてしまうと子どもの安全性が担保できないということになりますので、そこは大人が安全を担保しながら子どもたちが、いかに自己決定をして行けるかというところが、地域教育の大

きな役割だと思います。逆に言うと、子どもたちのキャリアに繋がっていくというように思います。学校の教育だけではなくて、地域での教育だとか、地域での学びというものが子どもたちの生き方みたいなものを決めていくのだと思うので、そこはすごく重要なところだと感じています。

あともう1つ、やはり子どもたちにとって、多様な大人と触れ合うということは本当に重要なことだと思いますので、先生方というのはどう考えてもいい人達の集団ですが、学校の先生というのは、地域には必ずしもいい人ばかりではないし、色々な価値観がある中で子どもたちが学びをしていくということなので、時にはむちゃくちゃな指導を受けるかもしれないというのも、実は子どもたちにとって本来的には学びだというふうに思います。

多様性みたいなところが地域教育においてはすごく重要なところで、法律に縛られずに、なるべく予算化されていくということが、すごく重要だなと思っています。そういうところがすごく進んでいけばいいなとも思います。

引き続き、来年度もこれを具体化していく委員会が立ち上がって、そこで議論がなされていくと思います。私のやり方で拙かったので、どうしてもビジョンを作りたかったのは、2年間では解決しないだろうと思っていたので、そもそもどういう方向でやっていくかということだけは決めたいということで、ビジョンも作らせていただきましたので、ぜひ今月中に教育長の方に私の方から答申としてお渡しします。

その際、強くこのビジョンに沿ってまた色々な具体策が考えられると良いのではないのかという事はお伝えしたいと思っていますし、覚悟という話も出ていましたが、教育長は覚悟を持っているのではないかなという気がするので、その部分もしっかりとお伝えできればと思います。

本当に2年間皆様、ありがとうございました。拙い司会や時間が伸びたりもしたと思うのですが、本当に皆様にとっても学びになるいい機会にもなったのだとしたら大変幸いだと思います。最終的には、後に頑張ってくださいというような答申にはなっていますので、その意味も含めて、皆様も引き続き注視をして頂ければなと思います。長くなりましたが、私からのお話とさせていただきます。

それではこの後は、3月中に教育長にお渡しするという事にな

りますので、私が教育長にお渡ししたら、それがウェブページ等で公開されるという形になると思いますので、ぜひご覧いただくと同時に、ぜひ広めていただきたいなと思いますので、声が出たよということを、ぜひ皆様の力でも広めていただければと思います。

事務局の方から特になければ大丈夫ですか。もし何かありましたら、終わった後にぜひお話ししてください。皆様は皆様のお考えを持っているかと思いますが、不満もあるのかと急に問い詰められるかもしれませんけれども、終わった後、少し時間はあるかと思うので、お話し頂ければと思います。

それでは、これにて本日の委員会の方を終了させていただきます。皆様、２年間ありがとうございました。

—— 了 ——